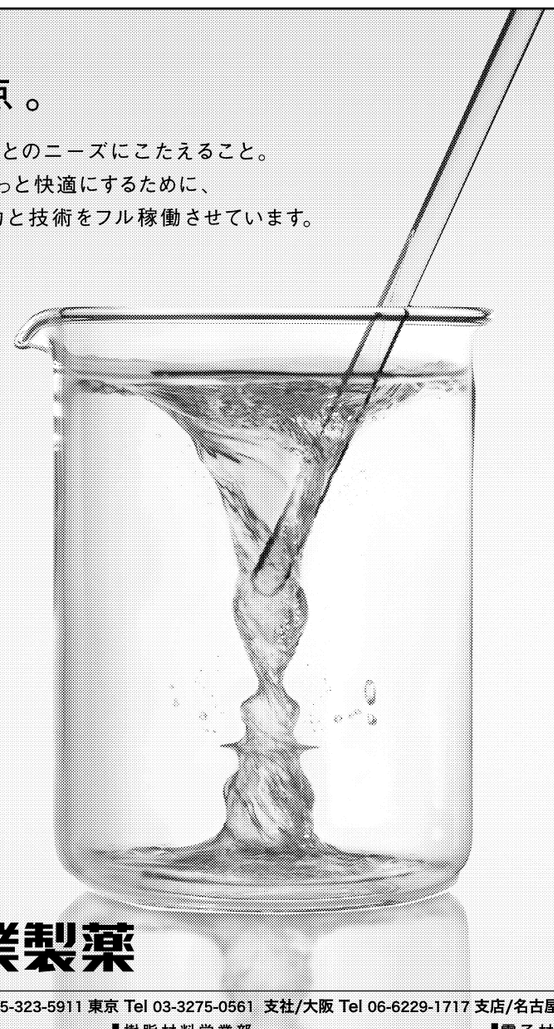
ひとが、原点。

我々の役割のすべては、ひとのニーズにこたえること。
環境を、暮らしを、未来をもっと快適にするために、
ひとを原点に考え、創造力と技術をフル稼働させています。



新規ナノファイバー増粘剤
レオクリスタ®
反応性乳化剤
アクアロン®
水系ウレタン樹脂
スーパーフレックス®
難燃剤
ピロガード®
帯電防止剤
レジスタット®
UV・EB硬化樹脂原料
ニューフロンティア®

第一工業製薬
www.dks-web.co.jp

第一工業製薬株式会社　本社/京都 Tel 075-323-5911 東京 Tel 03-3275-0561 支社/大阪 Tel 06-6229-1717 支店/名古屋 Tel 052-571-6331 九州 Tel 092-472-6353

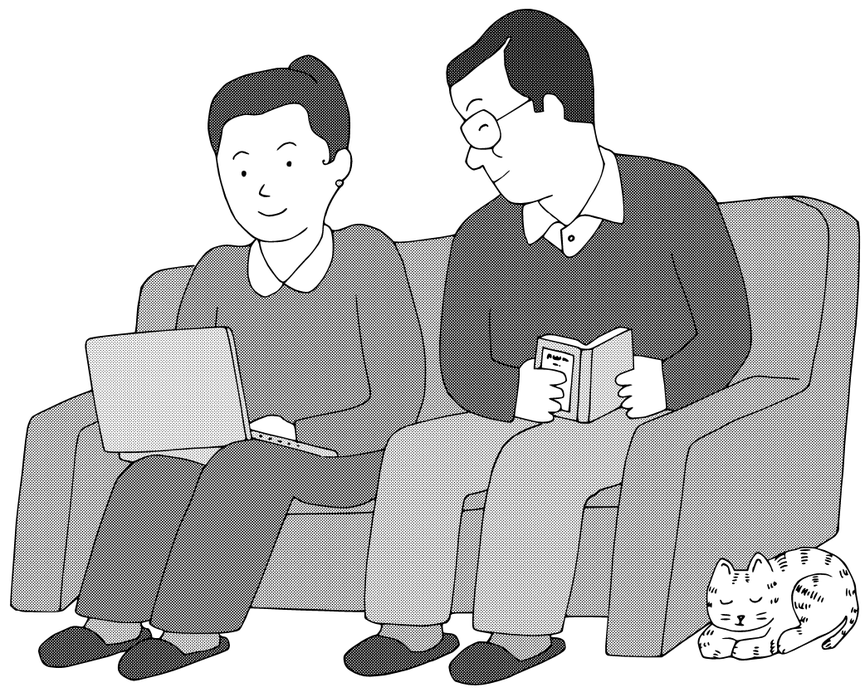
機能化学品営業部
界面活性剤 Tel 03-3275-0564/06-6229-1593
生活・食品 Tel 03-3275-0568/06-6229-1594

樹脂材料営業部
ウレタン Tel 03-3275-0579/06-6229-1597
水系ウレタン Tel 03-3275-0579/06-6229-1595
難燃剤・樹脂添加剤 Tel 03-3275-0570

電子材料営業部
電子材料 Tel 03-3275-0563/06-6229-1595
AM製品 Tel 03-3275-0563/06-6229-1595

人生は長い。だからこそ考えたいのは
健康寿命。

「健やかに」「いきいき」と過ごしたいものです。
元気に過ごす人生の期間を「健康寿命」といいます。
日本新薬は、一人ひとりの命のために、健康寿命が延びる、
そんな未来のために、新しい薬を創っています。



健康未来、創ります
日本新薬
NIPPON SHINYAKU CO., LTD.
http://www.nippon-shinyaku.co.jp

異彩放つ独創の〝技物〟

活躍フィールド拡大へ 中堅・中小、果敢に動く

三洋化成工業は非生物由来材料を使った外科用止血シーラントを商品化した。同社のウレタン技術を応用したもので、従来の生物由来の材料と比べて止血性に優れる。また界面活性剤技術を応用したたんぱく質の生産技術なども開発。今後の成長戦略として位置づけるバイオ関連事業での研究成果が実を結び始めた。

まったくの異分野ではKTCが工具メーカーとしての技術を生かして歯科医療器具に参入。インプラント手術器具で、締結時の微小トルクを正確にデジタル表示する。山岡製作所では樹脂成形で医療器具分野を開拓するため、クリーンルームを備えたラインを構築している。

中堅・中小企業にとっても、バイオ・メディカル産業への期待は高い。例えばトクデンは過熱蒸気発生装置「ユーティリティパワー・スーパースチーマー」でメディカル分野の開拓を目指している。電磁誘導による発熱で最高700度Cの過熱蒸気を高精度制御し、消毒や殺菌、乾燥、焼成などを効率化する。

魁半導体はプラズマ技術で市場開拓を狙う。プラズマでシャーレなどを前処理することで細胞培養での培養数を増加。各種実験の効果をより高めることができる。プラズマ処理によって親水性効果も得られ、ポリエステルやナイロンなど保水性の高い不織布開発で需要が期待できるという。

これらの中堅・中小企業に対し医療分野への参入を支援しているのが、京都リサーチパークだ。09年に金属加工や装置設計などモノづくりの中小企業を対象とした再生医療プラットフォームを立ち上げ、大学や研究機関などとのマッチングを行っている。

すでに細胞培養装置やソフトマテリアルスライス装置、吸引ピンセット、組み合わせマイクロプレート、カンシなどさまざまな研究装置やツールが試作され、実際に研究現場で活躍しているものも少なくない。

モノづくり力、実結ぶ

三洋化成工業が商品化した非生物由来材料を使った外科用止血シーラント

内外特殊エンジが開発に取り組むそよ風でも発電する風力発電機

京都では中堅・中小企業の中でも、独自技術で新市場に乗り出す企業が数多くある。染色工場向けの機械を手がける内外特殊エンジは、わずかな風でも発電する小型風力発電機の開発に取り組んでいる。従来の風力発電機よりも風を受けやすいアルミニウム製の大きな羽を備えながら、風が強まるとバネを利用して自動的に負荷をかけるシンプルな構造。毎秒2メートルのそよ風から発電でき、稼働率は大幅に向上。直径3メートルのサイズで500ワットの発電能力を持つ。すでに試作機での実証テストで実績を重ねており、2015年以降にも本格的に販売に乗り出す考えだ。同社では1キロワットの太陽電池と5キロワット時の蓄電池を組み合わせ、売電に頼らないハイブリッド発電システムとし商品化する。

アルミやステンレスなどの金属加工を手がけてきた坂製作所は、高静音性の小型コンプレッサーを開発。B5サイズで4キログラムと小型軽量ながら、騒音値43デシベルで空気供給力は毎分10リットルと同5リットルを実現。大手医療器メーカーやカメラメーカーなどに試作品を納入した。

理化学機器メーカーの井元製作所は、分子レベルで混ざらない高分子どうしをナノレベルで混ぜ合わせるための全自動連続式高せん断成形加工機を製品化。プラスチックの物性を大きく変える新規材料の創出につながる。

京都には、オンデマンド製本で世界80%のシェアを持つ太陽精機や、食品の計量、包装システムで業界トップのイシダなど、独自の〝技〟を持って世界市場を席巻している非上場企業が少なくない。次代のグローバル企業の座を狙う企業が続々と登場するのも、京都の持つ魅力だろう。

巨大市場 印へ進出相次ぐ

今、インドが熱い。中国や東南アジアの勢いが鈍る中、インド経済のポテンシャルへの期待が高まっている。京都企業も例外でなく、インドへ攻勢を強めている。島津製作所の中本晃社長は「インド市場はかなり回復してきた」と指摘。同社はインドでの販売拠点の拡充に取り組んでいる。

インドでもっとも積極的なのが日本電産だ。2020年ごろをめどに1000億円以上の設備投資に踏み切り、車載や家電向けのモーター工場を5カ所に建設する。1カ所目として、すでにニムラナ工業団地（ラジャスタン州）に15年の稼働を目指して建設中。さらにムンバイなど主要都市での建設を進める。永守重信会長兼社長は「インドは将来は中国を抜く魅力的な市場。1000億円以上の売り上げ規模を目指す」と力を込める。

「京セラは切削工具の新工場をインド東部のジャールカンド州に2月に完成。同社にとって初めてのインドでの生産拠点となる。主に刃先交換チップやホルダーを生産。月産10万個体制となる。

堀場製作所はインドに血液検査用試薬の生産工場を完成し、2月に稼働した。インドでの病院数や医療水準が上昇しており、アジアでは中国に次ぐ成長市場。同社の血球計数装置も需要拡大が見込まれる。試薬工場の完成で、血液検査に必要な試薬の即納体制を確立。供給コストも抑え、事業拡大に弾みをつける。

アークレイは、インド試薬大手のスパンダイアグノスティクス（スーラト市）から事業を買収。インド事業の拡大と、スパン社が得意な感染症向け試薬事業を強化する。

オムロンヘルスケアはインドで血圧計の販売を強化している。11年に販売会社を設立。同国では生活習慣病患者が約1億3000万人いるとされるため、地域の薬局を訪問するローラー作戦を実施し、無料の血圧測定会なども企画。家庭で血圧を測定することの重要さを啓発している。

京都市内で会談した日本電産の永守重信会長兼社長（左端）とインドのモディ首相（右端）